

# 第14回子どもの貧困対策情報交換会

事例から学ぶコロナ禍の市区町村子どもの貧困施策

福岡県古賀市長 田辺 一城

# 田辺かずき プロフィール

## 新聞記者として（22歳～30歳）

福岡県古賀市出身、福岡高校、慶應義塾大学法学部法律学科を卒業。2003年から、毎日新聞の記者として社会で厳しい状況に置かれた障がい者や経済的困窮者、子どもたちを取材し、声を紙面で届けた。大阪社会部では「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」の子どもの貧困観を聞き取る調査に密着。「友人の持ち物を欲しいと思う自分が恥ずかしい」といった証言に、**貧困が子どもの心理に与える影響の大きさを実感。**

## 福岡県議会議員として（30歳～38歳）

「対話」と「交流」を起点に住民の「声」を政治に反映すること、「手元にある政治」を理念とし、2011年から2期8年務めた。すべての本会議や委員会の質疑で生活のあらゆる分野に及ぶ多くの政策を提案。中でも、**子どもの貧困の実態把握、重い障がいのあるお子さんの特別支援学校における医療的ケアの推進、高齢者介護政策の前進などの成果を上げた。**

## 福岡県古賀市長として（38歳～、現在40歳）

2018年初当選。チルドレンファースト・誰もが健康で安心して暮らしていける地域社会・産業力の強化を軸に、「オール古賀」のまちづくりを推進中。特に困っている方にスピード感をもって支援策を講じることが**地方自治体の責務**と考え、コロナ対応の独自策を次々と講じている。



詳しくは  
田辺かずきのSNSへ！  
随時情報更新中です



# 福岡県古賀市はこんなまちです！

人口およそ5万9千人、2万6千世帯が暮らしています。九州最大の都市福岡市に程近く、JR鹿児島本線、国道3号線、九州自動車道古賀ICなど交通アクセスに恵まれています。



白砂青松の美しい海岸線、蛍が飛び交う清流、温泉、緑豊かな山々に恵まれた自然豊かなまちです。



多数の豪華な馬具などが見つかった、古賀市の前方後円墳「船原（ふなばる）古墳」は国史跡に登録されています。

いちご（あまおう）やみかんなどの生産も盛んで、食料品製造品出荷額は県内第2位を誇る食のまちです。



# 新型コロナウイルス感染症対策における 古賀市のチルドレンファーストの取り組み

## 子育て世代の経済的困窮を支援する取り組み

- 子育て世帯への臨時特別給付金
- ひとり親世帯緊急支援金支給（5万円）
- 臨時休校中の配食事業
- 子どもの元気応援米
- ころもにごちそうを
- 家庭保育協力補助金
- 保育所入所の復職期限の延長
- 中学3年生がいてインターネット環境がない場合、無線LANルーター貸与と通信費の補助
- 高校生などがいる生活が厳しい世帯へ、高校生ひとり当たり1万円を給付
- ひとり親世帯へ追加支援

## 学校や幼保の現場を支援する取り組み

- 小・中学校の臨時休校、保育所等の臨時休園
- 小1特別自習室・自学自習教室開設
- 中学3年生に1人1台端末の確保（7月に完了）
- 年内に全ての小中学生に1人1台端末を配備
- 全ての普通教室に大型モニターを設置
- 修学旅行における感染症対策費用を助成
- 小中学校の消毒作業を行う臨時職員を採用

## 子どもたちの「心」を大切にしたい取り組み

- 小1歓迎サクラサクプロジェクト
- 恩師からのエールをまとめたリーフレット送付
- 市内中学・高校の吹奏楽部の演奏会を開催
- 中学3年生の交流試合を実施
- シトラスリボンを全市へ

## 社会的に弱い立場の方に寄り添う取り組み

- 医療的ケア児へ消毒用アルコールの配布
- 妊娠中の市役所職員の在宅勤務
- 子育て中・妊娠中の従業員への配慮を事業者へ依頼
- 市内在住の妊婦へ不織布マスクを配布



子育て世帯へ  
臨時特別給付金を給付

ひとり親世帯へ  
緊急支援金5万円を給付

ひとり親世帯への追加支援

臨時休校中の配食事業  
困窮家庭は無料

「子どもの元気応援米」  
就学援助世帯に1人10キロ

「心にごちそうを」  
民間と連携した食材供給

## 子育て世代の 経済的困窮を 支援する取り組み

保育所入所に関する保護者の  
復職期限を延長

家庭保育協力補助金  
保育所だけでなく幼稚園も

中学3年生がいる  
経済的に厳しい家庭への  
無線LANルーターの貸与と  
通信費の補助

高校生などがいる  
生活が厳しい世帯へ  
高校生など1人当たり  
1万円を給付



小中学校の臨時休校  
保育所等の臨時休園



修学旅行のバス台数を増加  
感染症対策費として助成  
(2人掛け座席を1人で使用)

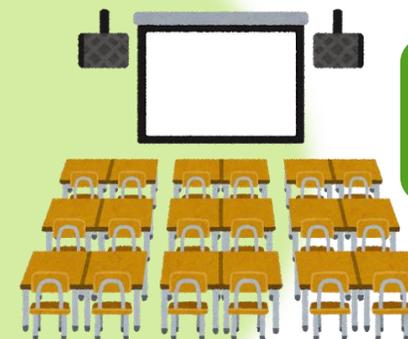


小1特別自習室・  
自学自習教室の開設



## 学校や保育所等の 現場を 支援する取り組み

全ての普通教室に  
大型モニターを設置



中学3年生全員に学習支援ソフト  
「スタディサプリ」を導入したタ  
ブレットの配布 (8月実施)



年内に全ての小中学生に  
1人1台端末を配備



小中学校の消毒作業を行う  
臨時職員を採用  
(保護者・地域と連携)



# 子どもたちの「心」を大切にしたい取り組みをご紹介します



**サクラサクプロジェクト**として新小学1年生の写真を集め、満開の桜に見立てて教室に飾り、入学式が中止になった新入生を元気づけました。



市内全ての小中学校の校庭に1文字ずつ「**えがおでげんきにあおう**」のメッセージを書きFacebookに投稿し、臨時休校明けの小中学生を励ましました。



市内の高校生を応援するため、**中学校時代の恩師の先生方からメッセージ**をいただきリーフレットにまとめ、高校生等がいるご家庭へ書類とともに送付しました。



市内中学・高校の吹奏楽部の演奏会や、中学3年生の交流試合を開催し、大会が中止となった**部活動生の集大成の場**を設けました。

市役所職員や教職員の皆さん、各種団体の皆さんの「心」に寄り添う優しさと柔軟な発想、たくさんのご尽力のおかげで様々な取り組みが実現できています。引き続き古賀市として全力を尽くしてまいります！



妊娠中の市役所職員の  
在宅勤務を決定



医療的ケア児へ  
消毒用アルコールを  
配布



社会的に弱い立場の方に  
寄り添う取り組み  
～医療的ケア児・妊婦～

市内在住の妊婦さんへ  
不織布マスクを配布

市内外の事業者・個人の方々からの  
マスクの寄附を活用

子育て中・妊娠中の  
従業員への配慮を  
事業者へ依頼



# まとめ～必要なこと～

- ①有事も平時も、まず「子ども」
- ②特に「経済的困窮」に焦点
- ③「木を見て森を見る」大切さ
- ④「異例」に弱い行政を説得
- ⑤「スピード感」ある決断と実行
- ⑥職員の「感性」を大切に

生活実感を捉える現場主義と、それに裏打ちされた判断を即座にするしかありません。